

吉村七重プロデュース

二十絃 箏 展 Vol.37

20 Stringed Koto Concert vol.37 – featuring commissioned works
produced by Nanae Yoshimura

委嘱作品を中心に

2025年6月10日(火)

午後7時開演(6時半開場)

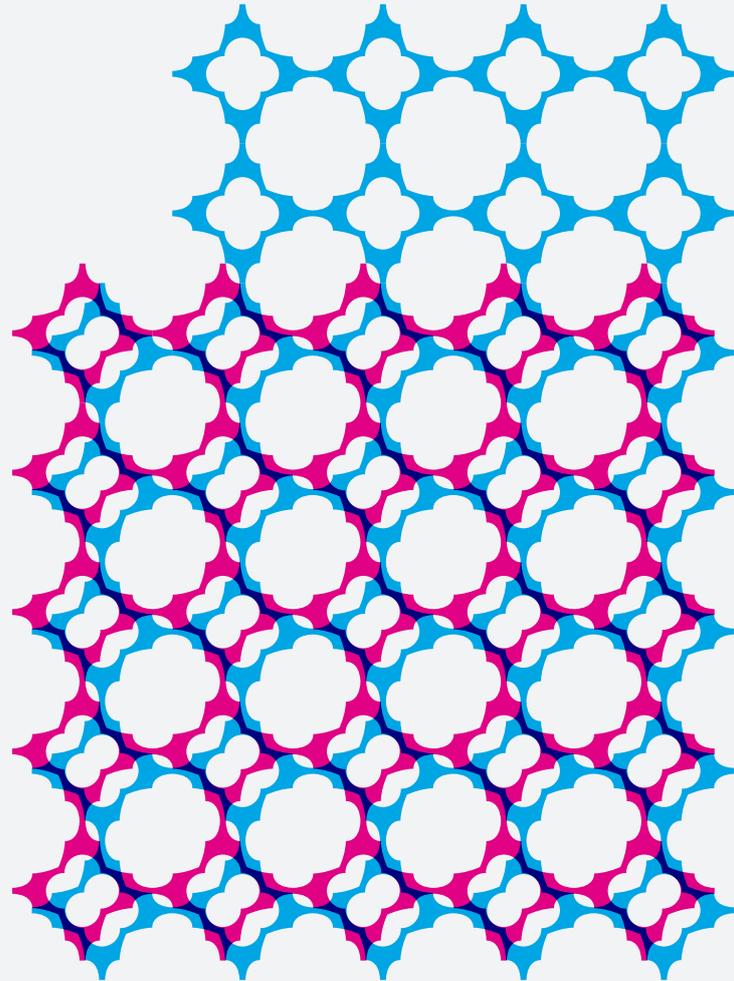
すみだトリフォニー小ホール

JR 総武線錦糸町駅下車3分 TEL= 03-5608-5400(代)

入場料=3,000円(全席自由)

曲目

- 三木 稔 — 天如 (1969)
Minoru Miki Tennyō for 20-stringed koto
(1930-2011) 二十絃箏=田村法子
- 柴田南雄 — 七段遠音 (1992)
Shibata Minao Shichidan Tone for 20-stringed koto
(1916-1996) 二十絃箏=坂本ゆり子
- 湯浅譲二 — 内触覚的宇宙第3番 虚空 (1990)
Joji Yuasa Cosmos Haptic No.3-Kokuh for 20-stringed koto
(1929-2024) 二十絃箏=吉村七重 尺八=藤原道山
- 佐藤聰明 — 桜 (2021)
Somei Satoh Somei Satoh: Sakura for 20-stringed koto
(1947) 二十絃箏=吉村七重
- 伊藤弘之 — 秋の暮 (2002)
Hiroyuki Itoh Aki no kure(The dusk of autumn) for 20-stringed koto
(1963) 二十絃箏=下田れい子
- 川上 統 — 尾長鶏 (2013) 改訂版 (2016)
Osamu Kawakami Phoenix chicken for recorder, 20-stringed koto and sho
(1979) 二十絃箏=丸岡映美 箏=宮田まゆみ
リコーダー=鈴木俊哉



出 演
吉村七重
田村法子
坂本ゆり子
丸岡映美
下田れい子
客 演
宮田まゆみ
鈴木俊哉
藤原道山

助成=公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 ARTS COUNCIL TOKYO
[東京芸術文化創造発信助成]
主催=吉村七重箏研究所 後援=日本文化藝術財団
マネージメント=東京コンサーツ スタッフ=琴光堂和楽器店 デザイン=原倫太郎
問い合わせ=吉村七重箏研究所 <http://nanaehp.web.fc2.com/>
東京コンサーツ <https://www.tokyo-concerts.co.jp/>

吉村七重プロデュース

二十絃箏展 Vol.37 委嘱作品を中心に

20 Stringed Koto Concert vol.37 – featuring commissioned works
produced by Nanae Yoshimura

2024年から名称を改めました「二十絃箏展」の前身、邦楽展第1回は1997年に始まり2022年にVol.35を迎えました。その間には多くの作曲家のご協力を頂き、二十絃箏のために書かれた様々なタイプの作品をメンバーと共に初演しました。

昨年の「二十絃箏展 Vol.36」では、「邦楽展」時代の委嘱作品をお聴きいただきましたが、今回の「二十絃箏展 Vol.37」では二十絃箏のために初めて作曲された独奏曲へ三木稔・天如、吉村が日本で初演した作品の中から4曲へ柴田南雄・七段遠音、湯浅譲二・内触覚的宇宙第3番 虚空へ佐藤聡明・桜へ伊藤弘之・秋の暮へに加え、鈴木俊哉委嘱へ川上統・尾長鶏へ(吉村・宮田・鈴木トリオ初演)の6作品を演奏いたします。

これらの作品が変化する形を発見出来る事を吉村自身がとても楽しみにしている演奏会です。是非その音を共有していただきたくお出かけ下さいます様お待ちしております。

吉村七重、二十絃箏展メンバー一同

二十絃箏展に久々ご登場の作曲家のご紹介

佐藤聡明 Somei Satoh

日本そのものの空気感、存在感を音楽で表現する稀有な作曲家。
(吉村七重)

伊藤弘之 Hiroyuki Itoh

四分音(半音の半分の音程)を多用しながら、色々な楽器編成による様々な「揺れるイメージ」と「フラジャイルな美しさ」を30年来追求してきました。四分音は箏の響きに自然に溶け込み、とても美しい色彩を放つので、箏を使った作曲は注文があればもっと試してみたい世界です。もうすぐ62歳(途中10年程アメリカで生活)ですが、先日の健康診断によると体は実年齢より3歳若いらしく、気持ちだけが40代くらいのつもりです。

川上 統 Osamu Kawakami

2013年にこの「尾長鶏」という曲を書かせていただきました。いつも動植物をモチーフにした作品を作曲しております。初めてこの鶏を見た時に豪華絢爛かつユーモラスな印象を受け、笙、リコーダー、二十絃箏の三重奏の音楽として表現しました。お楽しみいただけましたら幸いです。

客演

[笙] 宮田まゆみ Mayumi Miyata

国立音楽大学招聘教授、伶楽舎音楽監督。

[リコーダー] 鈴木俊哉 Toshiya Suzuki

ソプラノからバスまでのすべてのリコーダーを演奏。
ダルムシュタット・クラークニッヒシュタイナー賞。

※吉村七重、宮田まゆみ、鈴木俊哉、共に日本文化藝術財団より、
日本伝統文化振興賞を受賞。

[尺八] 藤原道山 Dozan Fujiwara

東京藝術大学音楽学部准教授。
令和二年度(第71回)芸術選奨文部科学大臣賞受賞。

今回の出演者

田村法子 Noriko Tamura (正派音楽院教授)

天如

二十絃箏が誕生してから、数多くの曲がこれまでに二十絃箏に授けられました。天如は最初の独奏曲。改めてこの曲が最初の独奏曲であったことに心がざわつき、曲にのめり込む。大曲である天如。素直に向き合い音を紡ぎたい。楽器の持つ魅力を空間に広げたい。伝えたい。

坂本ゆり子 Yuriko Sakamoto (新潟県上越市/グループ箏爛漫代表)

七段遠音

この作品を初めて聴いたときに不思議な感覚、でもとても美しいなという感想を持ちました。初段から少しずつ音が増えて非現実的な響きを交えながら、主題の南部子守唄に到達します。後半になるにつれて五音音階の耳馴染みの良い旋律になりますが、調弦が十二音階ですので弾きにくくなるのが少し大変ですが、自然な流れで演奏出来たらと思います。

丸岡映美 Hayumi Maruoka (昭和音楽大学非常勤講師)

尾長鶏

今回の編成は初めてで、素晴らしい奏者の方々と演奏させて頂けることになりワクワクしております。ワクワクだけで空回りしないように表現できればと思います。

下田れい子 Reiko Shimoda

(熊本市在住/熊本ルーテル学院・熊本必由館箏曲部講師)

秋の暮

秋の曲、秋の夜、秋をテーマにした曲は二十絃箏に限らず、箏曲には数多くあります。今回演奏させていただきます秋の暮は、情景描写ではなく自由な発想、磨かれた感性を求められているような気がします。人生の秋を迎えた自分自身の秋に対するイメージや想いを重ね合わせ、豊かな世界を広げていければと思います。

チケットご予約

吉村七重箏研究所 email: 7e8ekoto@gmail.com
ピーティックス <https://nijugen-koto-ten-2025.peatix.com>
※お支払は当日受付でお願いいたします



ピーティックス

トータルミュージックチャンネル

こちらのQRコードから二十絃箏の動画を見ることができます。

